

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第16回 LLW埋設施設検査方法分科会議事録

1. 日時：2010年2月9日(火)9時30分～12時40分

2. 場所：日本原子力技術協会 7階 C・D会議室

3. 出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 川上(主査), 吉原(幹事), 雨宮, 枝松(平川代理), 大内(吉森代理),  
河村, 京谷, 後藤, 小山, 兵藤, 藤谷, 宮本, 山本正史, 山本正幸(上田  
代理)(14名)

(欠席委員) 新堀(副主査), 河西, 金子, 塩見, 久田(5名)

(常時参加者) 池田, 小野, 金子, 新保, 関口, 中村, 田中(明), 田中(靖),  
庭瀬, 安田, 山田, 増田(12名)

(枝松, 大内, 山本常時参加者は委員代理出席)

(欠席常時参加者) 大音, 中瀬, 廣永(3名)

(事務局) 谷井

4. 配付資料

- F15SC16-1-1 第15回 LLW埋設施設検査方法分科会議事録(案)  
F15SC16-1-2 第14回 LLW埋設施設検査方法分科会議事録(訂正)  
F15SC16-2-1 原子燃料サイクル専門部会の活動状況  
F15SC16-2-2 標準委員会の活動状況  
F15SC16-3 原子燃料サイクル専門部会における決議投票の結果について  
[余裕深度処分施設, ピット処分施設, トレンチ処分施設の施設検査  
方法]  
F15SC16-4-1 第41回 原子燃料サイクル専門部会における書面投票時のご意見・  
コメント対応[余裕深度処分施設検査方法標準案]  
F15SC16-4-2 余裕深度処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版  
F15SC16-4-3 余裕深度処分施設の施設検査方法(案)[完本版]  
F15SC16-5-1 第41回 原子燃料サイクル専門部会における書面投票時のご意見・  
コメント対応 [ピット処分施設検査方法標準案]  
F15SC16-5-2 ピット処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版  
F15SC16-5-3 ピット処分施設の施設検査方法(案)[完本版]  
F15SC16-6-1 第41回 原子燃料サイクル専門部会における書面投票時のご意見・  
コメント対応[トレンチ処分施設検査方法標準案]  
F15SC16-6-2 トレンチ処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版  
F15SC16-6-3 トレンチ処分施設の施設検査方法(案)[完本版]  
F15SC16-参考1 2010年春の年会(3/26-28)企画セッション提案書

## 5. 議事

### (1) 出席者及び資料確認

事務局より、委員 19 名中 14 名の出席があり、決議に必要な委員数（13 名以上）を満足し、本分科会は成立している旨の報告があった。

### (2) 前回議事録の確認

幹事より F15SC16-1-1 により、前回議事録（案）の説明があり、承認された。

#### ・修正箇所

P4 の下から 6 行目の“ご発言”を“発言”に修正する。

### (3) 原子燃料サイクル専門部会の活動状況及び標準委員会の活動について

事務局より、F15SC16-2-1 及び F15SC16-2-2 に沿って、原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会の活動状況について報告があった。

### (4) 原子燃料サイクル専門部会の書面投票結果について

幹事より F15SC16-3 により、原子燃料サイクル専門部会の書面投票結果について、27 票の投票中、賛成票 24、意見付保留 3 票により、3 標準すべての本報告案が可決された旨の説明があった。

### (5) 『余裕深度処分施設の施設検査方法』標準案の書面投票時のコメント対応及び修正案について

F15SC16-4-1 及び F15SC16-4-2 に基づき、余裕深度処分施設の施設検査方法標準(案)箇条 1～4 のコメント対応結果について、山田常時参加者から説明があった。続いて箇条 5 について、小野常時参加者から説明があった。主な議論は以下のとおりである。

- ・まえがきの英文の **radiation hazards prevention**（放射線防護）が修正されていないので、ピット処分と同様に、**prevention from radiation hazards** に修正のこと。  
⇒採承。
- ・3.6 も 3.5 と同様に、“余裕深度処分施設の場合”に修正のこと。  
⇒採承。
- ・5.3.2c)1) の“レベル”は、“レベル計”などというのが一般的ではないか。  
⇒RC 示方書においても、“レベル”と記載されており、これが一般的な用語と考えます。
- ・附属書 A の図 A.3 について、内容も変更しているように思えるが、どのような変更によるものか。  
⇒記載の形式を統一しました。対象設備の抜けなどを修正して、統一を図りました。
- ・附属書 D の語尾を“望ましい”に統一しているようであるが、“望ましい”は、規定的な表現である。原子燃料サイクル専門部会でも、この部分に関するコメントはなかったようなので、この修正は慎重に行った方がよい。  
⇒基本的に、“ピット処分の附属書”と同様な表現としています。D.1 に“・・・例を示す”としているため、D.1 以降の事項については、規定ではないと判断しています。

・それはわかるが，“望ましい”ではなく，“適切と考えられる”，“望ましいと考えられる”などのようにした方がよい。

⇒再検討致します。

・書面投票のコメントについて，検査の記録，品質保証について，本体に記載すべきか否かについてご意見を伺いたい。

⇒コメント対応案のとおり，保安院から，今後は廃棄埋設施設設置者に対しても，JEAC4111：2009を適用する旨を通達することが示されました。このように，これから国で定めることに対して，学会側で先んじて規定しないほうがよいと考えていますので，ここは，現状の記載どおりとさせていただきます。

・No.3のコメントに対して，“上記の技術基準以外・・・”としているが，具体的な規則の条文番号を記載した方がよい。

⇒拝承。

(6) 『ピット処分施設の施設検査方法』標準案の同コメント対応及び修正案について

F15SC16-5-1及びF15SC16-5-2に基づき，ピット処分施設の施設検査方法標準(案) 箇条1～4のコメント対応結果について，山田常時参加者から説明があった。続いて箇条5について，山本委員(上田委員代理)から説明があった。主な議論は以下のとおりである。

・“3.6 埋設設備”に余裕深度処分と同様に注記を付けたほうが良いのではないかと。余裕深度処分～ピット処分～トレンチ処分では，埋設施設や埋設設備などに関係する定義の中身が異なる可能性があることを念頭に置く必要がある。

⇒拝承。

・解説4.4.1の“放射線の遮へい”が修正されていないので“放射線の遮へい”に修正のこと。

⇒拝承。

・解説図2において，廃棄物埋設地でグルーピングすると，定置クレーンなども廃棄物埋設地に含まれると誤解される。図は再度工夫した方がよい。

⇒拝承。図については，再度検討します。

・5.3.2 b)1)において，“試験成績表”となっているが他の材料と同様に“試験成績書”とすべきではないか。

⇒RC示方書において“試験成績表”と明記されている上，一般的な表現であるためこの表現としました。

・5.3.4 a)2)において，検査時期を他の材料と同様に“受入時期”に変更すべきではないか。

⇒“土質系材料”は他の材料と違い頻繁に品質管理を実施しているわけではありません。よって，覆土施工前及び覆土材の調達先を変更する都度に検査することで十分と考えています。

・5.4 d)1)において“など”を“等”としているのは何故か。また，その区別はどうなっているのか。

⇒JIS Z 8301に基づく表記です。

- ・ 附属書 D の表 D.2 の修正内容が不明である。  
⇒ 拝承。修正がされていないので，“検査項目”を“確認項目”に修正します。
- ・ 5.4 d) 1)に“余裕深度処分との整合”とあるが、まだ表現が異なっている。  
⇒ 拝承。確認して、整合する表現に修正します。
- ・ 解説表 1 におけるアンダーラインの意味は何か。また、このアンダーラインはこの資料だけの扱いか、それとも最後まで標準に残るのか。  
⇒ ご指摘については、標準の文中の重要な箇所にアンダーラインを入れるつもりであったが再検討します。アンダーラインが必要であれば、その意味（国の確認行為に該当するなど）を注記で説明する工夫を考えます。

(7) 『トレンチ処分施設の施設検査方法』標準案の同コメント対応及び修正案について F15SC16-6-1 及び F15SC16-6-2 に基づき、トレンチ処分施設の施設検査方法標準(案)箇条 1～4 のコメント対応結果について、山田常時参加者から説明があった。続いて箇条 5 について、田中（靖）常時参加者から説明があった。主な議論は以下のとおりである。

- ・ 余裕深度処分とピット処分との横並びを考えれば、トレンチ処分には、埋設設備がないことの旨を、用語の定義に記載した方がよい。  
⇒ 3.5 の注記などに埋設設備がない旨を記載するなど、工夫します。
- ・ まえがきの英文で、廃止措置の英訳がぬけている。余裕深度処分、ピット処分ともに見直しが必要である。  
⇒ 確認し、統一して修正を図ります。

## 9. その他

- ・ 本日の審議結果に基づいて修正を行い、3月3日開催予定の原子燃料サイクル専門部会に諮ることとする。修正内容の確認に関しては、主査・副主査・幹事に一任する。
- ・ 主査より、F15SC16-参考 1 に基づいて、2010 年春の年会（3/26-28）の企画セッションにおいて、LLW 施設検査方法標準と埋設後管理方法標準の策定状況を報告する提案書の説明があった。

以 上